

平成25年度 事業概要

公益重視の管理経営と、森林・林業の再生に向けた各種取組を推進します



ニホンジカから高山植物を守る取組



民有林と連携し木材の供給体制を整備



中部森林管理局
平成25年5月

問合わせ先: 中部森林管理局 総務課 広報

TEL 050-3160-6513 FAX 026-236-2733
URL <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

目 次

中部森林管理局における国有林の管理経営の基本的な考え方…………… 1

1. 公益重視の管理経営の一層の推進…………… 3

- ①人工林の間伐等の森林整備の推進
- ②生物多様性保全の推進
- ③地域関係者や民有林との一層の連携
- ④安全・安心な国土基盤づくり

2. 森林・林業再生への貢献…………… 7

- ①森林施業を通じて得られる木材の生産と供給
- ②低コスト作業システムの普及・定着
- ③需要に即した木材供給の取組
- ④林業事業体の育成
- ⑤森林施業の集約化の推進
- ⑥技術開発の推進
- ⑦森林・林業技術者の育成

3. 山村地域の振興と森林の総合利用…………… 11

- ①森林とのふれあいの場の提供
- ②森林づくり活動等のフィールド提供

参考資料 管内概要…………… 12

中部森林管理局における国有林の管理経営の基本的な考え方

中部森林管理局管内の国有林の特徴

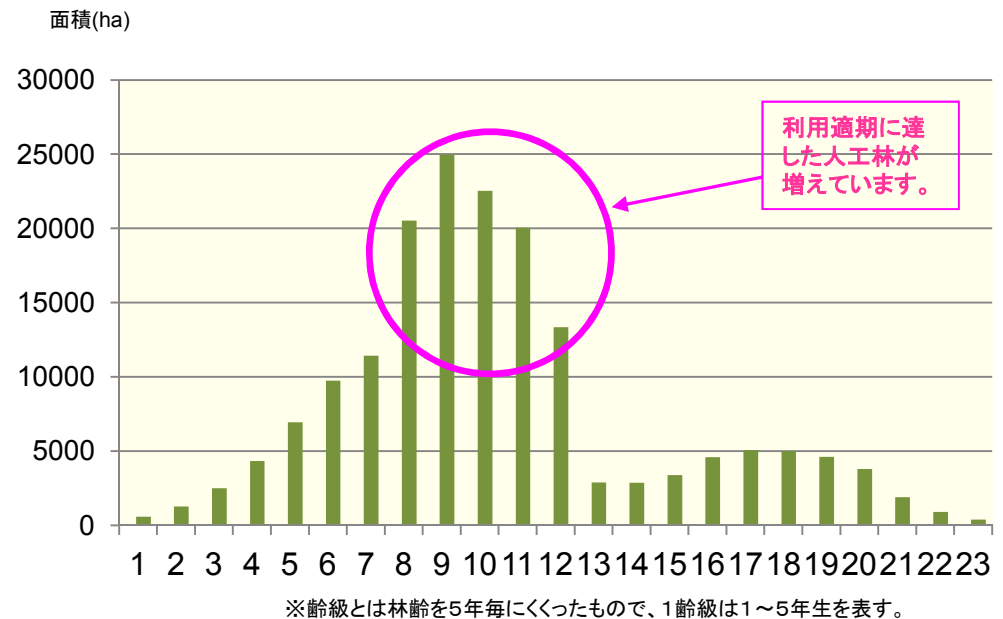
- 中部森林局管内は、長野、富山、愛知、岐阜の森林の約3割を占める約66万haの国有林を管理しています。
- 国有林の多くは日本アルプスの山岳地帯など奥地脊梁山地や重要な水源地域に多くがまとまっています。
- また、森林資源が成熟し、木材として利用可能な人工林、国民の保健休養の場として利用されている森林もあります。

管内国有林の位置



●自然休養林(11箇所)

人工林年齢級グラフ



国有林の果たすべき役割

中部森林管理局管内の国有林の分布や資源状況等を踏まえ、以下に主眼を置いて管理経営を行うこととしています。

公益重視の管理経営の一層の推進

☆ 国有林には国土の保全などの公益的機能の発揮が求められており、国民との双方対話を一層行いながら進める各種計画の策定、生物多様性保全、地域と一体となった鳥獣被害対策を推進します。

☆ また、地域住民の安全・安心のための国土基盤づくりのため、治山事業を着実に進めるとともに、国民の安心に向けた情報発信を一層推進します。

森林・林業再生への貢献

☆ 戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎える中、公益的機能の発揮と木材生産を両立させる森林経営を確立し、森林・林業を再生するため、国有林のフィールドや技術を活用した支援に取り組みます。

山村地域の振興

☆ 山村地域の社会経済に貢献するとともに、森林の保健・文化・教育的利用等の取組を進めます。

1. 公益重視の管理経営の一層の推進

国土保全・水源涵養・地球温暖化の防止等に果たす国有林野の役割や国民の期待等を踏まえ、森林の公益的機能の持続的発揮に取り組みます。

① 人工林の間伐等の森林整備の推進

◆ 山地災害の防止や水源涵養機能の発揮、地球温暖化防止等の公益的機能を維持・増進するため、人工林の間伐等の森林整備を着実に実施するとともに、長伐期化、針広混交林化など多様な森林づくりを推進します。

25年度 主な事業量

(単位：ha)

区分	植付	下刈り、 つる切り等	間伐
平成23年度	33	4,411	7,189
平成24年度	50	3,690	5,979
平成25年度	92	2,132	5,760

※平成25年度は当初予定（24補正含む）

※平成24年度は実績見込み、平成23年度は実績

間伐前



間伐後



植付(左)、下刈り(右)の実施(木曾署)

② 生物多様性保全の推進

◆ 奥地脊梁山地等を中心に森林生態系の生物多様性を保全するため、保護林等の適切な保全管理を進めるとともに、高山植物保護活動や、自然再生事業を実施します。

木曾地方の温帯性針葉樹林の取扱いの検討

◆ 木曾地方では、木曾ヒノキを中心に良質な木材が産出され、古くから伝統的建造物や地場産業の用材として活用されてきました。また、温帯性針葉樹林がまとまって自然度の高い状態を構成している地域は世界的に貴重なものとされています。

このため、木曾地方の温帯性針葉樹林の貴重性や地域振興に果たしてきた役割を踏まえ、保護林だけでなく多角的な視点から複数のゾーニングとその森林の取扱いを検討します。



木曾ヒノキ林(南木曾支署)



木曾ヒノキ林(木曾署)

② 生物多様性保全の推進

高山植物保護の実施

◆ 立山や御嶽山など管内百名山を中心にグリーンサポートスタッフ（GSS）等による高山植物保護のための巡視を行います。

◆ 山火事や廃棄物の不法投棄等の未然防止のため森林官等による国有林野巡視を行います。



高山植物保護啓発活動(中信署)

自然再生事業の実施

◆ 木曾駒ヶ岳や雲ノ平における高山植物の復元活動や長野県西部地震災害復旧地における自然再生事業を、NPOやボランティア等と連携して実施します。



木曾駒ヶ岳における植生復元作業
(木曾森林ふれあい推進センター)

③ 地域関係者や民有林との一層の連携

◆ 国民の方々や民有林関係者との双方向の情報等の受発信により、透明性が高い国有林野の管理経営を進めます。

森林計画の策定における地域に根ざした幅広い情報等の反映

◆ 森林計画の策定に当たり、国有林の森林資源や整備状況、利活用等に関する情報を広く提供するとともに、地域の方々との懇談会や現地見学会の開催、ホームページ等による意見募集を実施し、地域に根ざした幅広い情報や要請を森林計画に反映させるよう取り組みます。

〔 H25 懇談会実施計画区 千曲川下流、宮・庄川森林計画区
H25 策定計画区 庄川、千曲川上流、揖斐川森林計画区 〕



現地見学会(H24.9.17)
(千曲川上流森林計画区・東信署)

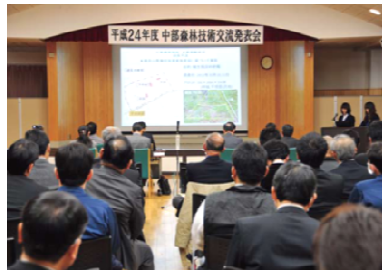


地域住民との懇談会(H24.9.23)
(庄川森林計画区・富山署)

③ 地域関係者や民有林との一層の連携

信州大学農学部との連携・協力協定の締結

◆ 生物多様性保全等のための人材育成等を目的に、平成22年3月から信州大学農学部と3ヶ年の協定を締結していましたが、平成25年度からは連携・協力する分野を、生物多様性保全などの森林の公益的機能発揮のみならず、森林資源の有効利用、森林、林業の再生に向けた取組まで含めた新たな連携・協力協定として締結し、さらなる協力を推し進めます。



中部森林技術交流会発表会



講演会

罠いワナの効果

ニホンジカをくくりワナで捕獲するには、頻繁な見回りや捕獲後の止め刺し、埋設、更には他の動物の錯誤捕獲などの課題があります。

また、くくりワナによる捕獲では、痛みや苦痛を与えるとともに、ストレスホルモンによる肉質低下を招く研究成果があり、食肉利用の普及を進める上でもデメリットになっています。

このため、見回り頻度の減少、通年・数年の捕獲が可能、生体捕獲のため止め刺し不要、また、鹿肉を美味しく食べることができるように供給できる可能性が大きい捕獲方法として「罠いワナ」は効果的です。

昨年度は東信署、南信署管内にまたがる霧ヶ峰地域の9箇所に罠いワナを設置し、捕獲したニホンジカを食肉処理施設へ搬送しました。魅力的な「餌」の種類や積雪期も考慮した設置場所、網目の構造改良やニホンジカの警戒心をどうやって取り除くかなど、今後の課題が明らかになりました。

～ニホンジカ被害対策～ 野生鳥獣との共存に向けた取組

◆ ニホンジカによる被害の発生が懸念される地域において、森林整備による生息環境の改善、捕獲による個体数調整等を、各地域のシカ被害対策協議会等との協働により実施します。

◆ 農政とも連携した広域な個体数調整(罠いワナや新たな捕獲網などの設置等)に取り組みます。

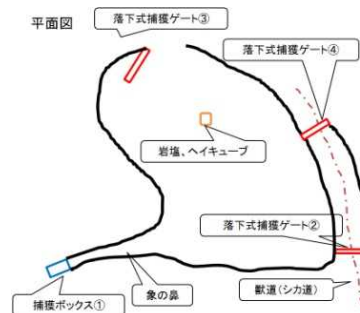
(平成24年度捕獲数2,576頭(職員による捕獲102頭、協議会等による捕獲2,474頭))



シカ被害協議会等と防護柵の設置(南信署)



ニホンジカによる被害(南信署)



固定式罠いワナの設置(東信署)



罠いワナに取り込まれたシカ(東信署)

④ 安全・安心な国土基盤づくり

治山事業の着実な推進

◆ 災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、集中豪雨や地震等により発生した緊急性の高い崩壊地等を24年度補正予算及び25年度予算において治山施設の整備により早期に復旧し、下流への被害を未然に防止します。

また、工事実施に当っては生物多様性の配慮や木材利用を推進するとともに、地域の特性に応じた治山事業の検討を進めます。

25年度 主な事業量

区分	溪間工（基）	護岸工（m）	山腹工（ha）
平成23年度	111	351	61
平成24年度	132	625	82
平成25年度	165	538	126

※平成24年度当初予定、25年度は当初予定（24補正含む）

※平成23年度は実績



生物多様性に配慮した施工
（北信署）



木材を利用した溪間工
（愛知所）

民有林直轄治山事業の実施

◆ 民有林においても、災害復旧事業の規模が大きい場合や特に高度な技術を必要とする場合は、県からの要請に応じて治山事業を実施します。



小渋川地区（鳶ヶ巣施工地）
（伊那谷総合治山事業所）



板取川地区（海ノ溝谷施工地）
（岐阜署）

災害発生時の迅速な状況把握・復旧対策の実施

◆ 大規模災害発生時は、民有林とも連携して、ヘリコプターの活用等による、調査や応急対策、復旧計画の策定、復旧事業の実施など迅速に対応します。



上高地で発生した山地災害の復旧対策
（中信署）

2. 森林・林業再生への貢献

森林・林業の再生に向け、間伐材等の生産コストの低減、木材の安定供給や需要開発、施業の大規模化の支援等の取組、これらを担う人材の育成を推進します。

① 森林施業を通じて得られる木材の生産と供給

◆ 森林の公益的機能の発揮と森林・林業の再生を図るため、森林整備の結果得られる木材を林道等の路網整備等を通じて低コストで生産・販売し、木材の安定供給に努めます。

25年度 主な事業量

(単位:千m3)

区分	伐採量			販売量	
	主伐	間伐	計	素材	立木販売
平成23年度	77	642	719	185	7
平成24年度	63	550	613	211	24
平成25年度	154	504	658	208	17

※平成25年度は当初予定(24補正含む)

※平成24年度は実績見込み、平成23年度は実績

システム販売量の推移

区分	協定件数	数量(m3)
平成23年度	20	113,167
平成24年度	21	143,504
平成25年度	25	125,110

※平成25年度は当初予定(24補正含む)

※平成23,24年度は実績

○計画的な路網整備の実施

(単位:km)

区分	林道等新設
平成23年度	15.5
平成24年度	23.6
平成25年度	34.1

※平成25年度は当初予定(24補正含む)(林業専用道)

※平成24年度は実績見込み、平成23年度は実績

(単位:km)

区分	森林作業道
平成23年度	227
平成24年度	274
平成25年度	338

※平成25年度は当初予定(24補正含む)

※平成24年度は実績見込み、平成23年度は実績

② 低コスト作業システムの普及・定着

◆ 国有林の森林整備事業において実施する低コスト作業システムについて、広く普及・定着するため、関係者にその効果を広く普及します。



林業専用道作設(飛騨署)



森林作業道作設(岐阜署)



ハーベスタによる伐倒・造材(北信署)



フォワーダによる運搬(東信署)

③ 需要に即した木材供給の取組

◆ 木材需要の一層の拡大を図るため、需要情報を的確に把握し、需要に即した木材の規格（直径、長さ）を揃えて安定的に供給します。

また、人工林材のブランド化を進める取組を実施します。

さらに、カラマツの軟弱地盤改良材としての利用の推進や安定供給、国産材使用合板の実証試験、薪の需要と供給のマッチング等を図るセミナーの開催による薪の需要拡大等に取り組みます。



段戸 国産材のブランド化(愛知事務所)



高国木曾ひのき
マルコウ マルコウ
高年齢人工林ヒノキのブランド化(木曾署・南木曾支署)
80 檜 本曾1
100 檜 本曾2
標示極印



人工林カラマツ小径木の供給(東信署)



東日本大震災で液状化被害を受けた箇所での地盤改良実証実験状況



間伐材使用合板



H25.2.17 薪談義

④ 林業事業体の育成

◆ 事業の発注に当たり、民間の林業事業体の創意工夫を活用できる総合評価落札方式を引き続き適用するとともに、中部森林管理局が発注する事業量の見通しに関する情報を積極的に発信します。

森林計画上の収穫量、保育量(5年分の計画)

平成25年度の森林管理署別の発注見通しは下記のHPアドレスをご参照下さい <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

計画区	関係署	計画期間	収穫量(m3)	保育量(ha)					計画区	関係署	計画期間	収穫量(m3)	保育量(ha)				
				下刈	つる切	除伐	枝打	計					下刈	つる切	除伐	枝打	計
神通川	富山	H24.4.1~H29.3.31	16,700		5	5		11	宮・庄川	飛驒	H22.4.1~H27.3.31	564,700	285	190	2,401	58	2,934
庄川	富山	H21.4.1~H26.3.31	27,700		8	166		175	飛驒川	岐阜	H24.4.1~H29.3.31	208,000	644	28	925	103	1,700
千曲川下流	北信	H22.4.1~H27.3.31	212,000	77	264	855		1,196	長良川	岐阜	H23.4.1~H28.3.31	18,500	35	33	64		132
中部山岳	中信	H23.4.1~H28.3.31	264,000	135	318	865		1,318	揖斐川	岐阜	H21.4.1~H26.3.31	15,000	34		22		56
千曲川上流	東信	H21.4.1~H26.3.31	550,000	33	1,377	663	55	2,127	木曾川	東濃	H25.4.1~H30.3.31	180,000	556	142	330	3	1,032
伊那谷	南信	H25.4.1~H30.3.31	260,000	288	618	186		1,093	尾張西三河	愛知	H23.4.1~H28.3.31	27,000	18	14	24		56
木曾谷	木曾	H24.4.1~H29.3.31	744,000	1,591	1,368	1,308		4,266	東三河	愛知	H25.4.1~H30.3.31	132,300	461	19	251	124	855
	南木曾	H24.4.1~H29.3.31		460	111	962		1,532	計			3,219,900	4,616	4,496	9,028	343	18,483

⑤ 森林施業の集約化の推進

◆ 民有林と国有林が連携して、森林の有する多面的機能の持続的発揮、木材の安定供給の推進等を目的に「森林整備推進協定」を締結し、民有林と国有林が一体となって森林の整備や木材の共同販売等に取り組みます。(H25年度に木曾地域全体で新たに協定調印予定)

東三河流域新城地区森林整備推進協定(愛知所)

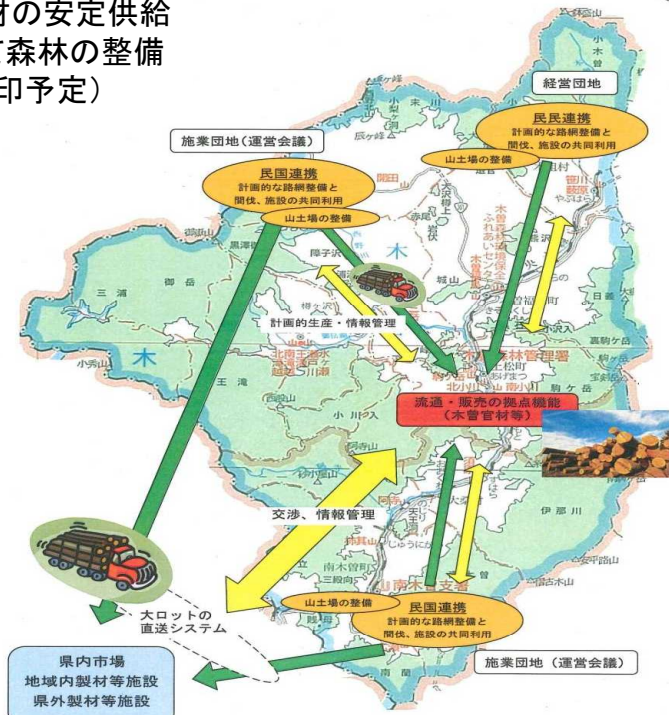


棚山森林整備団地
 団地面積
 673ha (うち国有林194ha,民有林479ha)
 整備内容
 17haの間伐、21 haの保育を予定



協定締結者
 新城市長
 愛知県新城設楽農林水産事務所長
 愛知県県有林事務所長
 愛知県森林・林業技術センター所長
 愛知県森林管理事務所長

協定期間
 平成25年3月7日～平成30年3月31日
 協定面積
 41,632ha(うち国有林836ha,民有林40,796ha)



木曾谷流域森林整備推進協定のイメージ

⑥ 技術開発の推進

◆ 民有林経営や森林整備・保全に関する技術や手法の普及を念頭に、低コスト造林手法の開発や、国産材コンクリート型枠合板を用いた治山事業など、国有林の事業実行において実証等の取組を行います。



コンテナ苗の植栽(岐阜署)

平成25年度に取り組む主な技術開発課題

技術開発課題	取組等
伐採・造林の一貫作業システムの導入による低コスト造林の確立	北信署、技支セン(霊仙寺)
民・国連携によるコンテナ苗植栽試験の実施	岐阜署、技支セン
過去に列状間伐を実施した箇所における2回目間伐時のコストに関する比較検討	北信署、岐阜署、技支セン
国産材コンクリート型枠合板を用いた治山事業の実証的実施	中信署(姫川)
湿性ポトゾル地帯の更新法 一三浦・助六実験林一	木曾署、技支セン(三浦、王滝)
長伐期施業における樹冠長率を指標とした森林管理技術の開発	岐阜署、技支セン(七宗外)
植生マットを用いた天然下種更新	東濃署(付知)

⑦ 森林・林業技術者の育成

- ◆ 国有林のフィールドや技術力を活用し、森林・林業行政を支援できる准フォレスターや林業専用道を適切に設計できる技術者を育成する研修を実施します。
また、大学等と連携し、将来の森林・林業技術者の育成に向けた取組も実施します。
- ◆ さらに国有林の技術者が、県の指導普及員とともに、市町村の森林・林業行政の支援を行います。

人材育成に向けた森林技術・支援センターの取組

平成25年度研修計画

区分	回数	期間
准フォレスター研修	2週間×3回	7月～11月
林業専用道技術者研修	3日間×4回	7月～10月

平成24年度研修生数

(人)

区分	府県・市等職員	森林管理局職員	民間事業体職員	計
准フォレスター研修	83	11	—	94
林業専用道技術者研修	55	22	19	96
計	138	33	19	190



森林資源循環利用構想策定演習



人材育成のための研修会(森林技術・支援センター)

市町村支援

森林所有者を集めた施業の集約化説明会において、森林整備や路網整備を一体的に実施することにより効率よく整備が進むこと等を説明。



地域の森林所有者への集約化説明会(木曾署)



県・国の准フォレスターによる民有林間伐事業地の現地検討(北信署管内)

3 山村地域の振興と森林の総合利用

森林整備や木材供給を通じた雇用創出等で山村地域の振興に貢献するとともに、地域との連携の下、多くの国民の皆さんが森林とふれあう場等の整備・提供などを通じて、森林の保健・文化・教育的利用の推進に努めます。

① 森林とのふれあいの場の提供

◆ 自然休養林等のレクリエーションの森をより広く国民の方々に利用していただきながら、地域の振興に寄与するための取組を地元関係者と連携しながら実施します。



赤沢自然休養林(木曾署)



木曾青峰高校から城山国有林で活動する城山史跡の森倶楽部に木製ベンチの寄贈(木曾署・木曾森林ふれあい推進センター)

◆ 新緑のカラマツの風景を題材とした写真コンテストを開催し、優れた作品を表彰しPRします。



カラマツ黄葉コンテスト最優秀作品

◆ 国有林に所在する、森林散策路等を観光資源として活用するため、地域と一体となったPR活動に取り組みます。



森林散策マップ(イメージ)

② 森林づくり活動等のフィールド提供

◆ 森林づくりや社会貢献活動等の需要に応えるため、「ふれあいの森」や「遊々の森」など『国民参加の森林づくり』のためのフィールドを提供するとともに、林業体験活動などへの技術支援も行います。



社会貢献の森「風とせせらぎの森林」で侵入した竹を除去(富山署)



遊々の森「どすこい山」での栗拾い体験(中信署)



木の文化を支える森「裏木曾古事の森」での下刈作業(東濃署)



ふれあいの森「穂の国みんなの森」で漁業関係者が森林整備(愛知所)

参考資料

○人工林天然林別機能別面積

単位:千ha

機能類型区分		合計							
		人工林		天然林		その他		計	
		面積	率	面積	率	面積	率	面積	率
山地災害 防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	45	26%	178	49%	24	20%	247	38%
	気象害防備エリア	2	1%	13	4%	2	2%	17	3%
	計	46	26%	192	53%	25	21%	263	40%
自然維持タイプ		1	1%	107	29%	80	68%	188	29%
森林空間利用タイプ		12	7%	22	6%	5	4%	39	6%
水源涵養タイプ		115	66%	42	12%	7	6%	164	25%
合計		174	100%	363	100%	118	100%	655	100%

※平成25年3月31日現在 森林調査簿データによる

※その他とは高山帯、林道敷等の面積である。

※項目ごと単位以下四捨五入のため計が一致しない場合がある。

○保安林面積

単位:千ha

区分	面積
保安林	637

※平成25年3月31日現在保安林台帳面積による

※官行造林面積を含む

○保護林面積

単位:千ha

区分	箇所数	面積
保護林	141	102

※平成25年3月31日現在 森林調査簿データによる

○緑の回廊

単位:千ha

名称(箇所名)	面積
越美山地	7
白山山系	24
雨飾・戸隠	4
八ヶ岳	6
合計	40

※平成25年3月31日現在 森林調査簿データによる

※項目ごと単位以下四捨五入のため計が一致しない

○レクリエーションの森

単位:千ha

区分	箇所数	面積
自然休養林	11	16.0
自然観察教育林	20	4.6
風景林	43	9.0
森林スポーツ林	7	0.3
野外スポーツ地域	20	3.4
風致探勝林	32	4.0
合計	133	37.4

※平成25年4月1日現在

※レクリエーションの森施設敷(単独施設)は含まない。

平成25年度 中部森林管理局の重点取組

1 公益重視の管理経営の一層の推進

木曽地方の温帯性針葉樹林の取扱いの検討

●木曽地方には木曽ヒノキ等からなる温帯性針葉樹林（天然林）がまとまっており、世界的にも貴重な地域であることから、木曽地方の国有林について科学的な調査と有識者等による分析に基づき、地域の声を聞きつつ、地域の理解と協力を得て永続的に資源を維持・管理していくための取組方針の検討を行います。

※ここでいう木曽地方とは、長野県内の木曽谷及び岐阜県内裏木曽です。



加子母裏木曽国有林



木曽ヒノキ林

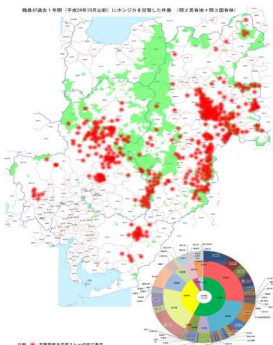
信州大学との協定

●中部森林管理局と信州大学農学部とは、平成22(2010)年3月、生物多様性保全等のための人材育成協定(3ヶ年)を締結し、森林管理局職員研修への講師派遣や調査・技術開発への指導助言及びフィールドの提供等を進めてきました。平成25年度からは、連携・協力する分野を生物多様性保全などの森林の公益的機能発揮のみならず、森林資源の有効利用、森林・林業の再生に向けた取組まで含めたものに拡充しました。



中部森林技術交流発表会

ニホンジカ被害対策の充実



職員アンケートによる目撃情報マップ

●地域と連携して高山植物の保護や生息調査、被害状況調査、捕獲等を進めてきており、引き続き地域や機関との連携を強化しながら、目撃情報の収集による生息調査や、防護柵による保護、囲いワナによる効果的な捕獲方法の検討を食肉利用の推進等も併せて取り組み、その成果を地域関係者に普及します。



防護柵の設置

治山事業の着実な推進



地すべり防止工事 集水井

国道158号に近接する坂巻地区で地すべり防止工事実施

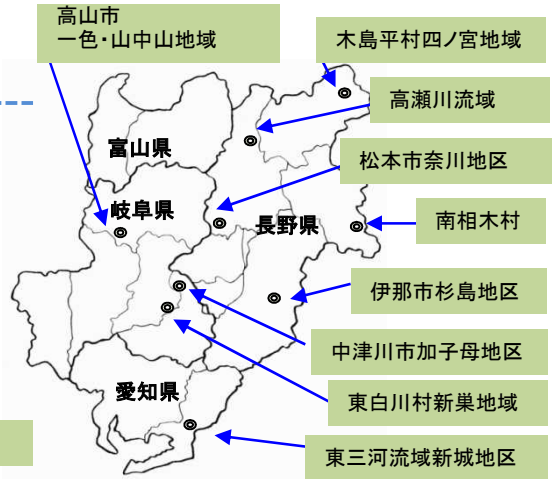
●災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、24年度補正予算等により、集中豪雨等で被災した緊急性の高い荒廃山地における事業の前倒しを行います。工事実施に当たっては生物多様性の配慮や木材利用を進めるとともに、地域の特性に応じた治山事業の検討を進めます。

2 森林・林業再生への貢献

民国連携による森林整備の推進

●民有林と国有林が連携して、森林が有する多面的機能の持続的発揮、木材の安定供給の推進等を目的に「森林整備推進協定」を締結し、民有林と国有林が一体となって森林の整備や木材の共同販売等に取り組みます。(H25年度に木曽地域全体で新たに協定調印予定)

※平成25年3月現在設定箇所



低コスト造林技術の開発・普及



ハーベスタ



フォワーダ



コンテナ苗植付

●人工林が次々と主伐期を迎える中、再造林コストの低減が課題となっています。このため、伐採から植栽（コンテナ苗）まで一貫した作業システムの実践を通じ林業経営コストの低減に取り組みます。

人工林材のブランド化

●長野県の木曽谷や愛知県設楽町の段戸国有林から産出される高齢級の人工林ヒノキをブランド化します。

☆木曽森林管理署、南木曽支署では木曽谷の国有林から生産される林齢80年以上の高齢級人工林ヒノキに「**高国**木曽ひのき」通称：マルコウマルコクキソヒノキ)として80-99年、100-119年、120年以上の3種類を販売します。

高国木曽ひのき
マルコウ マルコク



木曽ひのき



段戸
SAN
段戸国有林

☆愛知県北設楽郡設楽町の段戸国有林は、もっとも古いもので明治26年（121年生）と高齢級のヒノキ人工林を有しており、この段戸国有林から生産される、林齢100年を超えるヒノキに **段戸** と表示して販売します。

薪の需要拡大に向けた取組

●身近で伝統的な再生可能エネルギーであった「薪」の利活用を促進するとともに、薪の生産が身近な産業の一つとして、地域経済の活性化にも寄与するよう、薪の生産者から消費者等の関係者が一堂に会するセミナーの開催を通じて、需要と供給のマッチングを図るなど、薪等の需要拡大に取り組みます。



カラマツ材による軟弱地盤改良の取組



丸太杭（カラマツ）

●環境負荷の低減や低コスト・低振動など様々な効果が期待される木材を用いた軟弱地盤対策工事を推進するため、カラマツをはじめとする木材の安定供給を図ります。



東日本大震災で液状化被害を受けた箇所での実証実験状況

治山事業における国産材型枠合板の実証試験

●コンクリート型枠合板は、今まで南洋材を使用した輸入合板が主流でした。しかしながら、近年、国産材を用いた型枠合板が開発されたことから、間伐材の需要拡大に向け、治山事業において実証的な実施に取り組みます



間伐材使用合板

3 山村地域の振興と森林の総合利用

カラマツ新緑写真コンテスト



「カラマツ黄葉写真コンテスト」
最優秀作品



新緑のカラマツ

●四季折々に自然豊かな風景を作り出す信州。その代表ともいえる信州のカラマツを木材資源のみならず、観光資源としても再評価していただくため、長野県とともに「カラマツの新緑」を題材とした写真コンテストを開催し、優れた作品を表彰しPRします。

「カラマツ黄葉写真コンテスト」の入選作品は撮影場所市町村へ寄贈いたしました。

森林散策等の情報発信

●国有林に所在する、森林散策路や景勝地等を観光資源として活用するため、地域と一体となったPR活動に取り組みます。



御嶽山



森林散策マップ（イメージ）